

## 災害医療

国の内外における災害医療への積極的参加を啓発するため、HP や学術総会を通じて、以下の活動をしました。

H22. 5. 14 「平成 22 年度日赤 DMAT 及び日本 DMAT 研修」の案内を HP に掲載

H22. 6. 11 平成 22 年度 日本赤十字放射線技師学術総会において、海外救援活動に関する講演会を開催

「海外救援活動報告」 日本赤十字社 和歌山医療センター 川村 佳生 氏

「海外救援要員として活動するためには」

日本赤十字社 和歌山医療センター 口井 信孝 氏

H22. 7. 28 上記講演会のスライドを HP に掲載

H22. 9. 9 災害現場に X 線撮影装置を持ち込んで行なわれた平成 22 年度兵庫県合同防災訓練のレポートを HP に掲載

## 文書管理

昨年度 HP 文書管理コーナーに掲載した諸文書は以下の通りです。

H22. 7. 23 病院機能評価 Ver. 6 に関する資料

H22. 8. 11 松江赤十字病院の改正予防規程（案）

H22. 10. 13 障害防止法変更許可申請書における「常時立ち入る場所」の記載例

H22. 10. 28 医療機器管理に関する資料

H22. 12. 15 埼玉県における放射線部門機能強化事業に関する資料

H22. 12. 27 労働安全衛生法の届出に関する資料

貴重な資料やご意見等のご提供くださった方々に感謝申し上げます。

## 分科会活動報告

学術部 浅妻 厚

CT・MR・乳房画像の3部会で産声を上げた日本赤十字放射線技師会学術分科会は、21年より放射線治療・核医学・医療情報の3部会を加え、計6分科会計22名の世話人で活動を行ってきました。予算も満足に付かず、内容も曖昧なままスタートしましたが、各世話人はそれぞれに工夫を凝らし、ホームページ・業務研修会(学術総会)・施設調査等の様々な場で活動してもらいました。この場をお借りして、御礼申し上げます。しかし、十分な活動ができぬまま任期が終了してしまう分科会もあり、スペシャリストとして集まっていた世話人の方々に、十分に力を発揮してもらうことができず残念です。

こういった事業は、一過性ではなく継続することが大事であると考えておりますので、会員の皆様、今後ともご支援頂けますようよろしくお願い申し上げます。

## CT 分科会報告

長野赤十字病院 八町 淳

昨年、全国の赤十字病院で使用されている CT 装置および検査方法を調査し、6月に行われた、総会においてまとめを盛岡赤十字病院 藤村氏に発表していただきました。赤十字病院内においても CT 装置の多列化が進んでおり、列数による保険点数の差別化が計られ、一段と CT 装置における多列化が進んでいくものと考えます。また、今年度から X 線 CT 専門技師認定機構による X 線 CT 認定技師講習会が開催されます。多列化により今まで検査を行う上で思考錯誤しながら行っていた検

査が、容易く行うことが可能となってきました。CT装置性能の向上に伴い、専門的な知識が無くても質の高い検査が行える一方、安易に検査範囲を広くしたり、多くのフェーズを撮像するなど被ばく・造影剤使用量が増加しているのも現実だと思われます。高機能によりオートマチック化が計られるからこそ、最低限の被ばく・造影剤使用量で最大限の情報を得るために、専門技師による検査対応が必要なのだと考えます。

CT分科会発足において、多くの方々にご協力をいただき感謝しております。ただ、私の力不足で整備していただいた機能を充分使うことが出来なかったことは、反省しております。今年度をもって世話人を卒業させていただきませんが、今度は一会員として携わっていただければと思います。ありがとうございました。

## 乳房画像分科会 第1期総括

乳房分科会世話人一同

平成21年度から2年間の乳房画像分科会を運営してきました。

活動総括として、全国赤十字放射線技師研修会での座長、深谷赤十字病院において、第1回乳房画像研究会を開催いたしました。赤十字技師会の役員の皆様には多大なるご協力をいただき、感謝しております。

2年間の活動で感じたことは、赤十字病院が全国にあり、一同に会しての活動がなかなか困難であったことでした。特定の地域での限定的な活動となってしまうのはしょうがないと思いますが、徐々に活動範囲を広げていきたいと思っています。

HPを利用した施設紹介の企画も頓挫しており、世話人代表としては心苦しいのですが、何とか掲載していきたいと思っています。

今年度は3月に沖縄乳房画像研究会と東京埼玉医用乳房画像研究会、等分科会の共催で研究会を沖縄で開催いたします。

まだまだ未完の企画がありますが、その完成とともに、来年度はもっと全国展開できるような企画を新生世話人で考え、頑張っていきたいと思っていますので、今後とも分科会へのご協力、よろしく願いいたします。

## MR分科会の活動について

MR分科会世話人代表 大阪赤十字病院 高津 安男

これまで分科会の活動として、乳房撮像についてのアンケート調査に始まり、3T装置に関するトピックス、患者サービスや安全性の向上のための説明用DVDの作成について取り組んできました。これらを会員に還元することで有益な情報を提供できたと考えています。

意見交換しながら運営できたことは、仙台赤十字病院：安彦 茂氏、姫路赤十字病院：岩見 守人氏のご協力があってこそだと思います。3人でチームワークと向上心を持って取り組み、任期を全うできたことをすばらしいことだと思っています。

今後も、協力できることはサポートさせていただきたいと考えています。会員の皆様方のご協力、本当にありがとうございました。

## 事業総括

核医学分科会世話人代表 大津赤十字病院 放射線科部 課長 門前 一

昨今、核医学検査を取り巻く環境は“厳”一言に尽きるのではないでしょうか。経営面からは稼ぎ頭であった時代は終焉を迎え、DPC導入により核医学検査が減少しました。追い打ちをかけるように、カナダ原子炉の事故、アイルランドの火山噴火によりモリブデンの供給が世界規模でストップ、核医学検査が出来ない事態に陥った時期もありました。そんな時、医師から『核医学検査しているのかな？核医学が無くても治療の方向性は変わらないのでは？』こんな声も聞こえてきました。その当時に感じたことは、核医学検査は朽ちていくの？エビデンスの鎧を着た核医学の役割は残っているの？など不安ばかりでした。しかし、モリブデンの供給が正常化すると、私たちの心配を余所に検査数は息を吹き返し、その役割が再認識される分野もあります。高齢化が進む日本では

循環器疾患の治療 gate keeper になるモダリティーでありますし、がん医療においてはPET 検査も必要不可欠です。細胞レベルに取り込まれるトレーサは組織の機能を反映することを考えると、CT やMRI の造影剤とは大きく役割が違います。良い点を沢山持った検査にも関わらず、医師の興味が薄れてきていることは否めません。私たち診療放射線技師が積極的にその魅力を医師や患者さんに伝えないと値段の高い不必要な検査になってしまいかねません。小さなことからこつこつとをモットーに原点に立ち返り、難しい狭量の部分に拘ることなく、検査とその結果が患者さん、医師に易しいものにしていく必要があるのではないのでしょうか。私たち赤十字に勤める技師にとって一番身近な本分科会において、核医学検査に携わる技師間の活発な活動がここ数年できなかつたことは世話人代表が Being possible to do is bad であつたと反省しております。最後に文面をお借りしてお詫び申し上げますとともに、皆さんのご活躍、今後の核医学検査のますますの進歩、発展を祈念致します。

## 医療情報分科会

医療情報分科会 福井赤十字病院 秋田 直昭

本来ならば本年度の活動報告を行なうべきところですが、医療情報分科会の代表世話人として十分な活動や話題提供を行えずに任期を終えることとなりました。

総括になりますが、医療情報分科会の活動は、世話人の施設の医療情報システム導入状況掲載からはじまり、各施設への医療情報システムに関するアンケートを実施しました。また、ウィキペディア百科辞典やウィキリークス（苦笑）で有名な wiki という仕組みを利用し福井日赤で行なっている情報共有法の紹介と、wiki の簡単な説明ファイルを掲載致しました。

また、会員の皆様に wiki を実感していただくためと各施設に行なったアンケート結果を発展させる目的で作成した無料の wiki サイトの登録と利用の拡大を図りましたが、周知徹底の努力を怠りまして野放し状態です。しかし、幸いにも後任の世話人が当院の上司で wiki の使用経験と理解があります。一部ご協力いただいた施設の方のご好意を無駄にすることのないように何らかの形で継続してもらえると期待しております。

会員の皆様には、今後とも医療情報分科会と積極的に関わっていただくことを切に希望致します。